

琉球大学学術リポジトリ

沖縄島新記録のシマノハテマゴコロガイ(二枚貝綱:チリハギ科)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 大義 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46841



沖縄島新記録のシマノハテマゴコロガイ (二枚貝綱: チリハギ科)

佐藤大義

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系
e-mail: manzyuugani@gmail.com

要約．沖縄島の羽地内海からシマノハテマゴコロガイ *Peregrinamor gastrochaenans* Kato & Itani, 2000 を採集した．本種はミナミアナジャコ *Upogebia carinicauda* (Stimpson, 1860) の頭胸甲腹面に付着して生活するチリハギ科の二枚貝であり、宿主が熱帯から亜熱帯にかけて広く分布するのに対して本種は模式産地である奄美大島のみでしか見出されていない極めて分布の狭い種として知られていた．今回、沖縄島から採集されたことによって本種の分布は沖縄島まで拡大したが、沖縄島における生息状況はよく分かっておらず状況把握に向けた今後の研究が望まれる．

記録

シマノハテマゴコロガイ *Peregrinamor gastrochaenans* Kato & Itani, 2000 は、奄美大島の三か所の干潟から得られた標本を基に記載された種であり (Kato & Itani 2000), その生息地の少なから環境省レッドリストでは絶滅危惧 I 類 (CR + EN) に指定されている (環境省 2018) 稀少種である．近縁のマゴコロガイ *P. oshimai* Shoji, 1938 が複数のアナジャコ属アナジャコ類の胸部下面に付着する (木村・山下 2012) ことに対し、本種はミナミアナジャコ *Upogebia carinicauda* (Stimpson, 1860) からのみ見出されている宿主特異性の強い種であり、唯一の宿主であるミナミアナジャコ自体、国内での生息地が少なく (伊谷 2012), シマノハテマゴコロガイの生息基盤はかなり脆弱である．今回、著者はこれまでにシマノハテマゴコロガイの生息が確認されていなかった羽地内海から 1 個体を得たため、ここに報告する．

標本は液浸標本として琉球大学博物館風樹館 (RUMF) に収蔵されている．標本の大きさは殻長 × 殻高で示した．

また、本種の属する科位とその和名については岡山県野生生物目録 2019 (福田 2019) を参考にした．

Lasaeidae Gray, 1842

チリハギ科

Peregrinamor gastrochaenans Kato & Itani, 2000

シマノハテマゴコロガイ

(図 1A-D)

Peregrinamor gastrochaenans Kato & Itani, 2000: 310, fig. 1, fig. 2; 松隈 2017: 1268, pl. 561 (fig. 9); 久保 2012a: 162; 久保 2014: 264

検討標本．RUMF-ZM-11365, 6.0 × 2.8 mm, 沖縄県名護市屋我地島ワルミ海峡 (26.664063 N, 127.994916 E), 水深 4 m, 2018 年 8 月 9 日, ヤビーポンプで採集, 佐藤大義．

比較標本．シマノハテマゴコロガイ *Peregrinamor gastrochaenans* Kato & Itani, 2000. RUMF-ZM-00001, 4.5 × 1.8 mm, 奄美大島芦検, 2006 年 5 月 13 日, 名和純．

形態的特徴．殻は前後に長く上下に押し潰されたイガイ形であり (図 1A), 左右に強く膨らむ (図 1B). 殻頂は強く前端に寄る．殻表は平滑無毛である．殻の後方下部は左右で閉じず楕円形の穴が開いており (図 1C), 生時はその穴から軟体が露出してミナミアナジャコに付着していた．

生息環境．本標本はサンゴ礁の混ざる砂底の斜面の水深 4 m ほどからヤビーポンプで採集されたミナミアナジャコ (RUMF-ZC-05606, 甲長 8.8 mm) の胸部下面に付着していた (図 1D). このような生息環境は久保 (2012a) や久保 (2014) の示す本種の生息環境と、潮下帯であるという点を除けば一致した．また、宿主がミナミアナジャコであるということは尾節の背面に横向きの隆起があることによってアナジャコ属の国産他種から区別された．同所的にメナガオサガニ *Macrophthalmus serenei* Takeda & Komai, 1991 が採集された．

備考．本種はこれまでに奄美諸島の大島海峡からのみ見出されていた種であり、羽地内海からの記録は分布南限を更新するとともに本種の第二の生息地となった．著者らによる 2018 年 8 月 9 日の調査時には、波打ち際に多数のミナミアナジャコの脱皮殻が打ちあがっていたため、宿主の生息個体数が豊富であることが窺われ、

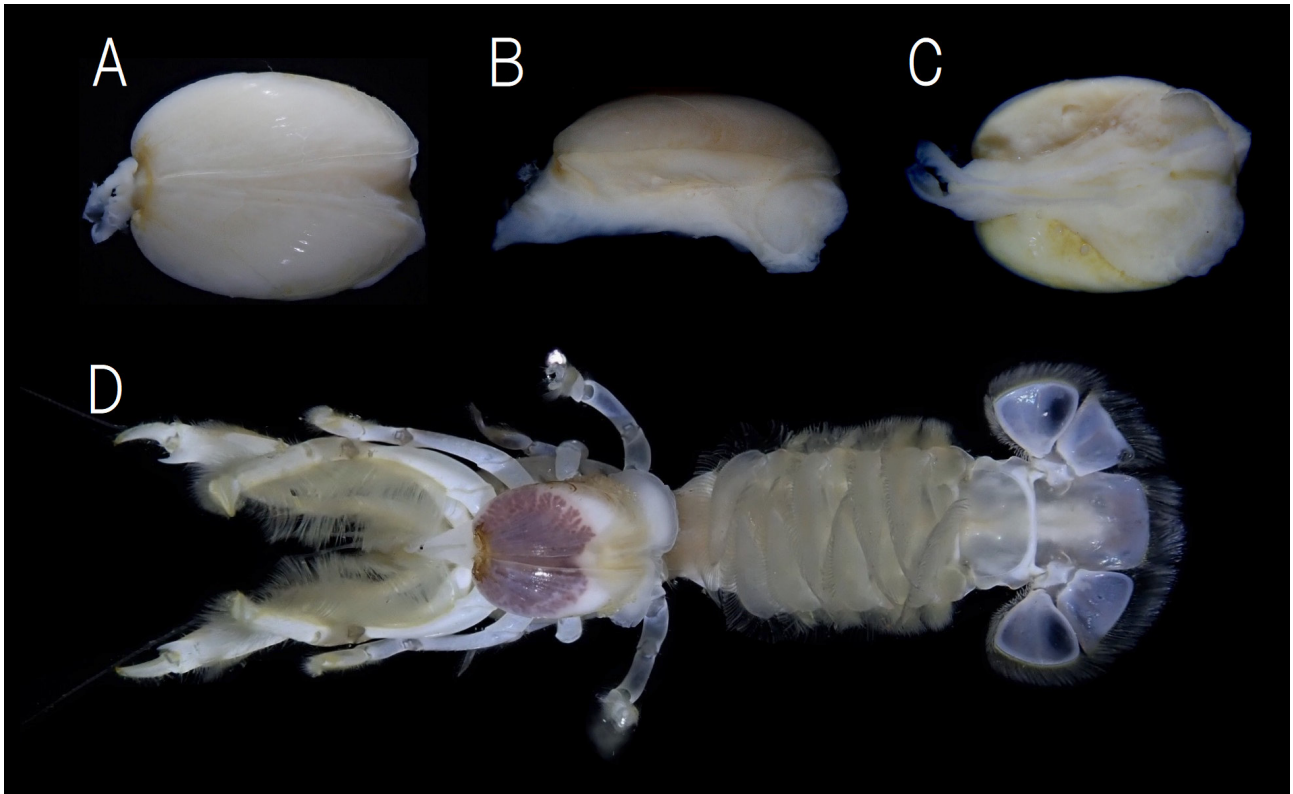


図 1. シマノハテマゴコロガイ (RUMF-ZM-11365). A, 上面; B, 左側面; C, 下面; D, 生時の宿主 (RUMF-ZC-05606) に対する付着状況.

Fig. 1. *Peregrinamor gastrochaenans* Kato & Itani, 2000 (RUMF-ZM-11365). A, dorsal view; B, left lateral view; C, ventral view; D, parasitic situation on *Upogebia carinicauda* (Stimpson, 1860) (RUMF-ZC-05606) when alive.

生息地の環境は良好であると考えられた。本標本は採集時、宿主の前後軸に対して90度傾いた状態で見出されたが(ヤビーポンプで吸い出した際に体勢が崩れたものと思われる), 数分後には宿主の前後軸と自身の前後軸を重ねるように付着していたため、宿主上での自由度は高いものと思われる。

奄美大島産の標本 (RUMF-ZM-00001) との比較では、奄美大島産の標本の方が殻の前端の丸みが弱くやや尖っているように見受けられたが、原記載の図を見る限りではそういった特徴は見られなかった。従って、これは比較標本に用いた個体が小型個体であったために成熟度の差によってこのような変異が見られたのではないかと考えられた。

羽地内海は、タマキビ *Littorina brevicula* (Philippi, 1844) やアラムシロ *Nassarius festivus* (Powys, 1835), マテガイ *Solen strictus* Gould, 1861 といった九州以北の普通種の、琉球列島における数少ない産地になっていること(久保 2012b) や、コヅツガイ *Eufistulana grandis* (Deshayes, 1855) の日本でほぼ唯一干潟で産する場所になっていること(木村・久保 2012) などから、過去に幾度も貝類の調査が行われてきた。ところが、過去の調査によってシマノハテマゴコロガイは

見つかっておらず、このことは貝類の調査時にアナジャコ類を対象とした調査が行われていないことや潮下帯が調査の対象となっていないことに起因する可能性が考えられた。沖縄島における本種の生息状況はほぼ分かっておらず、実態解明のために今後は生息地における生息密度の調査や羽地内海と同様の貝類相を擁する塩屋湾などでの調査が必要不可欠である。

謝辞

本研究において伊谷行氏(高知大学)には宿主のアナジャコ類の同定でお世話になった。佐々木健志氏(琉球大学風樹館)および成瀬貫氏(琉球大学熱帯生物圏研究センター)には収蔵標本の閲覧や標本登録の際に便宜を図っていただいた。久保弘文氏(深層水研究所)には本稿の執筆にあたって有用なご助言を頂いた。また、現地調査の際に伊藤大輝氏と辛島なつ氏(ともに琉球大学)に手伝っていただいた。以上の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

福田宏, 2019. 軟体動物門. 岡山県野生動植

- 物調査検討会 (編著), 岡山県野生生物目録 2019 ver. 1.0. Pp. 1–30, 岡山県環境文化自然環境課, 岡山. (http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/602836_5066757_misc.pdf)
- 伊谷行, 2012. ミナミアナジャコ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. P. 183, 東海大学出版会, 秦野.
- 環境省, 2018. 環境省レッドリスト 2018 の公表について. 報道発表資料.
- Kato, M. & G. Itani, 2000. *Peregrinamor gastrochaenans* (Bivalvia: Mollusca), a new species symbiotic with the thalassinidean shrimp *Upogebia carinicauda* (Decapoda: Crustacea). *Species Diversity*, 5: 309–316.
- 木村昭一・久保弘文, 2012. コヅツガイ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. P. 153, 東海大学出版会, 秦野.
- 木村昭一・山下博由, 2012. マゴコロガイ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. P. 162, 東海大学出版会, 秦野.
- 久保弘文, 2012a. シマノハテマゴコロガイ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. P. 162, 東海大学出版会, 秦野.
- 久保弘文, 2012b. タマキビ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. P. 35, 東海大学出版会, 秦野.
- 久保弘文, 2014. シマノハテマゴコロガイ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), レッドデータブック 2014 6 貝類. P. 248, 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 松隈明彦, 2017. シマノハテマゴコロガイ. 奥谷喬司 (編), 日本近海産貝類図鑑 第二版. P. 1268, 東海大学出版会, 神奈川.
- carinicauda* (Stimpson, 1860), is recorded from Haneji Inland Sea, Okinawa Island, Japan. This represents the first record from Okinawa Island and the second record of the species after one from Amami-Oshima Island. The distributional range of the species is expanded to the south.

投稿日: 2019年1月19日
受理日: 2019年11月5日
発行日: 2019年11月24日

New distributional record of *Peregrinamor gastrochaenans* Kato & Itani, 2000 (Bivalvia: Lasaeidae) from Okinawa-jima Island

Taigi Sato

Biology Program, Department of Biology, Chemistry, and Marine Science, Faculty of Science, University of the Ryukyus, 1 Sembaru, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan (e-mail: manzyuugani@gmail.com)

Abstract. *Peregrinamor gastrochaenans* Kato & Itani, 2000, a symbiotic bivalve with *Upogebia*